



# 日薬連

## 製薬業界の地球温暖化対策 カーボンニュートラル行動計画目標・実績

- ＜対象範囲＞ カーボンニュートラル行動計画フェーズⅠ・フェーズⅡ 目標  
参加企業のうちアンケート回答企業
- ＜対象期間＞ 2024年度
- ＜対象項目＞ カーボンニュートラル行動計画

## 【2024年度実績】

### ● 数値目標

- 2030年度CO<sub>2</sub>排出量を2013年度比46%削減（研究所・工場・オフィス・営業車両）  
（傾き2.7%/年：WB2°C水準）
- 長期ビジョン：2050年CO<sub>2</sub>排出量ネットゼロ

### ● 参加企業概要（2024年度）

	低炭素社会実行計画 フォローアップ対象企業	日薬連傘下企業
業態別団体数	9団体	15団体
企業数	94社（29.2%）	321社
売上高	77,718億円（39.0%）	196,901億円※

※厚生労働省の「令和5年度（2023年度）医薬品・医療機器産業実態調査（医薬品製造販売業-医薬品売上高規模別企業数及び資本金規模別医薬品売上高の状況）」のデータを引用

エネルギーデータの集計対象は、カーボンニュートラル行動低炭素社会実行計画参加企業108社のうち回答を見送った等の14社を除く94社（前年▼4社）

### ● 集計対象事業所数

	工場	研究所	合計
集計対象事業所	247	106	353

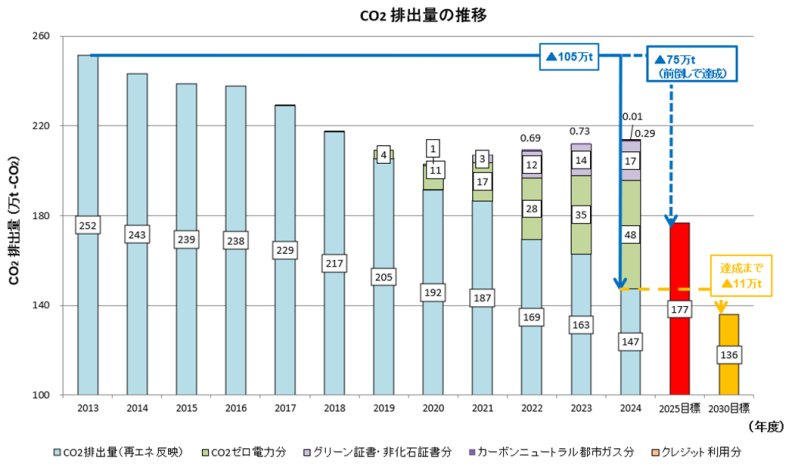
### ● エネルギー管理指定工場数（省エネ法）

種類	事業所数	備考
第1種	118	原油換算3,000kL/年以上
第2種	62	原油換算1,500kL/年以上、3,000kL/年未満
無指定	80	原油換算1,500kL/年未満
合計	260	—

# 生産活動量、CO2排出量・原単位の推移



## 【2024年度実績】



## 2030年度目標：2030年度CO<sub>2</sub>排出量を2013年度比46%削減

### 2024年度実績

2013年度比	▲41.4%
進捗率（目標）	90.0% (64.7%)
2023年度比	▲9.5%

- 進捗状況の把握には、調整後排出係数を使用。ただし、再生可能エネルギー（CO<sub>2</sub>ゼロ電力、再エネ証書、非化石証書）の排出係数はゼロとして算定
- 進捗率目標は年率2.7%削減として算定（進捗率＝（基準年度実績値－当年度実績値）／（基準年度実績値－2030年度目標値）×100）

前年度からは、経済活動量の拡大によりCO<sub>2</sub>排出量が2.39万トン、エネルギー原単位の改善があったものの0.86万トン増加した一方、CO<sub>2</sub>排出係数の改善により1.86万トン削減したことで、CO<sub>2</sub>排出量は1.38万トンの増加にとどまった。再生可能エネルギー導入効果を反映すると、15.44万トンの削減となる。

その結果、2024年度のCO<sub>2</sub>排出量は147.4万 t-CO<sub>2</sub>であり、基準年度である2013年度の排出量251.5万t-CO<sub>2</sub>に対して**41.4%削減**であった。また、前年度の排出量162.8万t-CO<sub>2</sub>に対して**9.5%削減**となった。

2030年度目標に対する進捗率は目標は61.4%に対し**90.0%**となった。

年度	2013（基準年）	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
売上高（億円）	73,229	68,637	69,889	70,307	70,079	70,680	71,371	66,804	74,412	77,092	76,850	77,718
CO <sub>2</sub> 排出量 (万t-CO <sub>2</sub> , 再エネ反映)	252	243	239	238	229	217	205	192	187	169	163	147
CO <sub>2</sub> 原単位(t-CO <sub>2</sub> /億円)	34.35	35.45	34.16	33.82	32.71	30.76	28.79	28.68	25.08	21.97	21.19	18.97
原単位指数	1.000	1.032	0.994	0.985	0.952	0.896	0.838	0.835	0.730	0.640	0.617	0.552

# 基準年度から2024年度までのCO<sub>2</sub>排出量の増減要因



日 薬 連

## 【CO<sub>2</sub>排出量の増減要因】

単位：万t-CO<sub>2</sub>

要因	基準年度(2013年度) ➢ 2024年度	2023年度 ➢ 2024年度
経済活動量の変化	13.79	2.39
エネルギー使用量あたりのCO <sub>2</sub> 排出量 (CO <sub>2</sub> 排出係数) の変化	▲45.45	▲1.86
経済活動量あたりのエネルギー使用量の変化	▲6.70	0.86
CO <sub>2</sub> 排出量の変化	▲38.35	1.38

再生可能エネルギーの導入、  
高効率機器の導入等

## 【2024年度におけるCO<sub>2</sub>排出量の増減理由※】

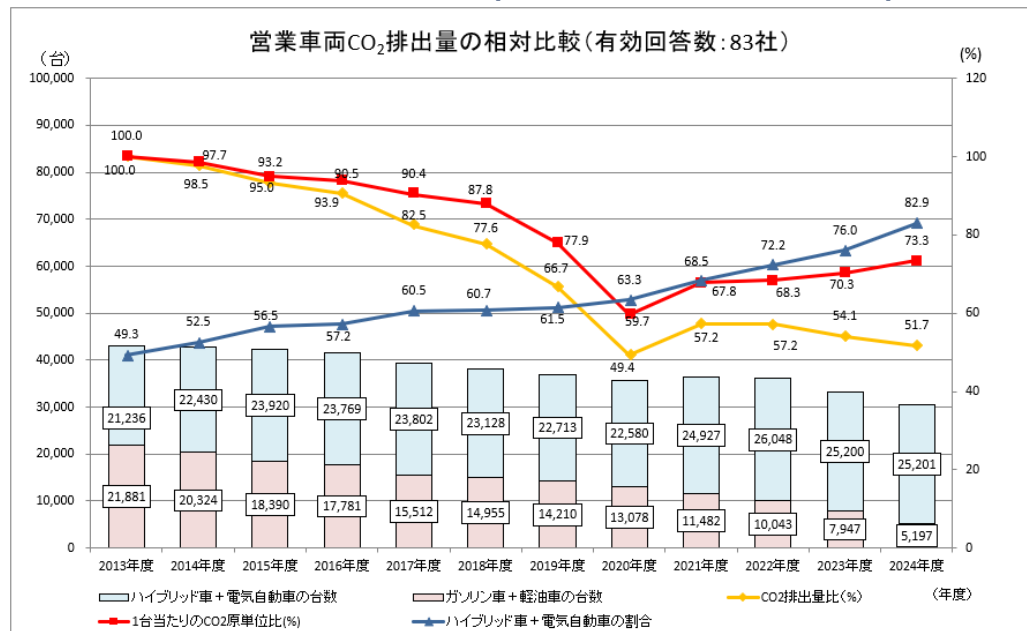
増減理由						
再生可能 エネルギー導入	地球温暖化対策 設備投資による変化	エネルギー 使用の効率化	生産量、研究 活動量の変化	施設の 統廃合	施設の新築・ 増設	海外への 生産シフト
52社	34社	24社	56社	10社	17社	0社

※厚労省FU調査

# 営業車への低燃費車導入

## 【2024年度実績】

### 営業車両への低燃費車導入(営業車両からのCO<sub>2</sub>排出)



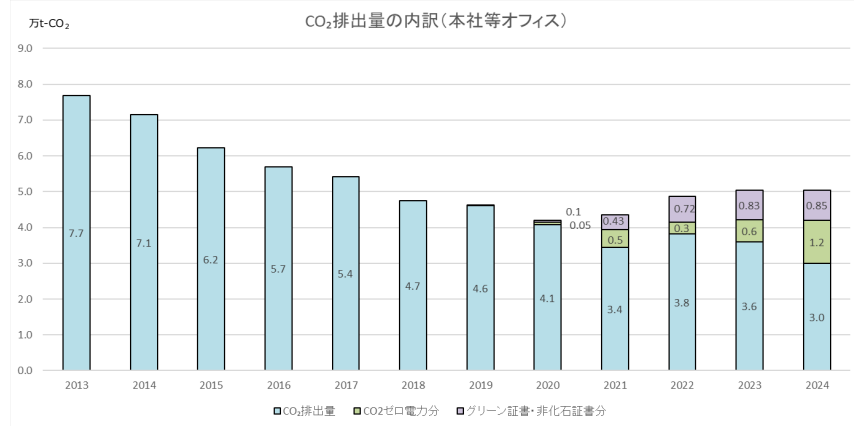
次世代自動車の導入や営業車両の効率的な利用により、CO<sub>2</sub>排出量は着実に低下している。  
2024年度は営業車全体の台数が減少しているが、電気自動車数は前年の1,279台から大きく増加し1,641台となった。

2024年度実績			前年比
営業車両数	(台)	30,398	▲8%
うち次世代自動車数 (除: Cディーゼル)	(台)	25,201	±0%
ガソリン使用量	(kL)	31,971	▲5%
軽油使用量	(kL)	779	+13%
CO <sub>2</sub> 排出量	(万t-CO <sub>2</sub> )	7.67	▲4%
CO <sub>2</sub> 原単位	(t-CO <sub>2</sub> /台)	2.5	+4%
次世代自動車の割合	(%)	82.9	+6.9p

# オフィス等のCO<sub>2</sub>排出実績

## 【2024年度実績】

指標	単位等		本社等オフィスの実績											
			2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
エネルギー消費量	電力購入量	(万kWh)	12,359	11,781	10,638	9,876	9,825	9,133	9,257	8,601	9,311	10,442	11,010	11,023
	CO <sub>2</sub> ゼロ電力購入量	(万kWh)		0	0	0	0	0	24	184	1,124	760	1,469	2,836
	グリーン電力証書・非化石証書	(万kWh)		0	0	0	0	0	0	118	989	1,658	1,961	2,004
CO <sub>2</sub> 排出量	CO <sub>2</sub> 排出量(再エネ購入・証書・クレジット)	万t-CO <sub>2</sub>	7.7	7.1	6.2	5.7	5.4	4.7	4.6	4.2	4.4	4.9	5.0	5.0
	CO <sub>2</sub> ゼロ電力分	万t-CO <sub>2</sub>	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.5	0.3	0.6	1.2
	グリーン証書・非化石証書分	万t-CO <sub>2</sub>	0	0	0	0	0	0	0	0.05	0.43	0.72	0.83	0.85
	CO <sub>2</sub> 排出量	万t-CO <sub>2</sub>	7.7	7.1	6.2	5.7	5.4	4.7	4.6	4.1	3.4	3.8	3.6	3.0



本社オフィス及び国内オフィス（以下、本社等オフィス）における2024年度CO<sub>2</sub>排出量は5.0万t- CO<sub>2</sub>（再エネ効果反映前）、3.0万t- CO<sub>2</sub>（再エネ効果反映後）であった。

グリーン電力証書や非化石証書などのCO<sub>2</sub>排出量がゼロの電力へ転換する企業は15社となり昨年度より1社減少した。

LED等の高効率照明機器の導入（70社）、空調温度の設定変更(62社)、在宅勤務（60社）、社員への教育、啓発（50社）、使用していないエリアの空調停止（48社）、照明機器の間引き(38社) 等、様々な対応によりCO<sub>2</sub>排出量削減への取り組みが進められている。

# 主体間連携の強化: 低炭素、脱炭素の製品・サービス等の概要、削減実績



## 【2024年度実績】

	製品・サービス等	当該製品等の特徴従来品等との差異、 算定根拠、対象とするバリューチェーン	削減実績 (推計) (2024年度)	削減見込量 (ポテンシャル) (2030年度)
1	バイオマスプラスチック 容器の導入	・化石由来原料の削減 ・包装資材メーカーとの連携	集計していない	算定困難
2	効率的な医薬品輸送 の推進	・トラック（ディーゼル、ガソリン）による個社ごとの医薬品輸 送から3PL、共同輸送、モーダルシフト等への移行に よる物流エネルギーの効率化 ・物流事業者、医薬品代理店、同業企業等を含むバ リューチェーン	3PL推進（41社） 共同輸送推進（50社） モーダルシフト推進（28社） 製品荷姿の標準化（38社） 製品の計量・小型化（31社） HV車等の低燃費車利用（19社）	集計していない
3	廃プラスチックのリサイク ル推進	・医薬品包装材料等の廃プラスチックのリサイクル推進によ る焼却処分量の削減、ケミカルリサイクルによる新たな石 油由来原料の使用量削減 ・廃棄物中間処理業者、自治体等との連携	集計していない	集計していない
4	営業車への低燃費車 導入	・ガソリン車からハイブリッド車、電気自動車等への切り替え によるCO <sub>2</sub> 削減 ・自動車会社、リース会社等との連携	本資料スライド6 参照	集計していない

以上